

弾道ミサイルを想定した住民避難訓練の参観

弾道ミサイルを想定した住民避難訓練が、令和6年5月28日（火）に青森県下北郡大間町で行われました。

これは、内閣官房、消防庁、青森県、大間町が合同で主催する訓練で、X国から弾道ミサイルが発射され我が国に飛来する可能性があるると判明された場合を想定して、住民のとるべき対応・行動の普及・啓発を図るとともに、市町村における初期対応手順能力の向上を図ることを目的に実施されました。

当日は午前10時頃に、国からの緊急情報を瞬時に伝える「Jアラート」が発令されると、訓練参加者らは、大間町総合開発センターに避難を開始、同施設では窓から離れた位置で、両手で頭部を守る姿勢を取っていました。

また、屋外では防災イベント会場が設けられ訓練参加者である近隣住民、大間小学校の児童らが、自衛隊、警察、消防の装備品及び担当者の説明に興味を示しつつ耳を傾けていました。

東北防衛局においては、国の関係機関及び東北各県の地方公共団体が実施する訓練等を通じて、国の関係機関及び地方公共団体等との連携強化を図り、各種事態が発生した際の迅速かつ的確な対応に資するため、これらの訓練への参加・参観を行っています。

当局では、今後各種訓練への参加等や当局独自の各種事態における対処訓練を実施し、更なる緊急事態に備えた体制整備を行ってまいります。

